

読んでますか? 『初等教育資料』

今年度から、2冊の教育資料(月刊誌)を回覧しています。忙しい中ではありますが、せめてこの2冊は目を通して下さい。大変役に立つ内容が盛り沢山です。たとえば、「初等教育資料」の巻頭言として、表紙の裏に『話題』があります。11月号は、教科調査官 杉田 洋 氏の「ある少年の話」です。このページだけでも、私たちの明日の活力につながるのではないのでしょうか。



自信のない少年の話です。

小学校三年生のときの給食時間のこと、「いただきます」の号令がかけれませんでした。みんなから「早く言えよ」と言われると、なおさら言えません。担任の先生から、「早く言いなさい」と叱られても、どうしても声が出ないのです。業を煮やした先生は言いました。「できないのなら廊下に立ってなさい」。

教師のたったひとりで、自信を失ってしまう子どもは少なくありません。こうして失った自信を取り戻すのは、子どもにとっては大変なことです。

そんな自尊心の低い少年に転機がおとずれしたのは五年生のときでした。学芸会の主役決めの際、「おまえ、やれば」「そうだ、おまえがやれ」とからかい半分の言葉がかけられたのです。うつむいて

いた、そのとき。

「やってごらんない、あなたなら必ずできます」。

大学を出たての新任女性教師のひとりで、誰もが予想しなかった主役が決定したのです。少年は先生の期待に応えたいと必死でせりふの練習をしました。

当日、少年は、震える足をゆかに押し付けながら、第一声をはき出しました。その後のことはよく覚えていません。ただ、幕がおりた後、先生や級友が一斉に駆け寄り「がんばったね、よくやった」などと口々に誉めてくれました。少年は、このことをきっかけに、自尊心を高めていくのです。

その後、少年は教師になり、やがて指導主事になりました。そして、ある学校で、偶然にも、校内研修の授業者としてあの女性教師に再会します。初任のときと退職

のときの二度、運命的な出会いをすることになったのです。

何としてもお礼を言いたいと思いました。しかし、あの女性教師が突然校長室に走り込んできてこの手を握り、涙をぼろぼろ流しながら「ありがとう、ありがとう」と何度もおっしゃるのです。「成長してくれてありがとう」そんな思いだったのでしよう。

その後、この少年が成長する節目には必ず、寄り添い、信じ、期待し、認め、励ましてくれる教師がいました。そしてそこには、一人一人を輝かせる特別活動という場があったのです。

その少年は、今、教科調査官として特別活動の担当をしています。そして全国の先生方に発信し続けています。「特別活動は、子どもたちの力を信じ、期待する時間です」と…。